

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 29 年 4 月 27 日 (2017.4.27)

【公開番号】特開 2016-198116 (P2016-198116A)

【公開日】平成 28 年 12 月 1 日 (2016.12.1)

【年通号数】公開・登録公報 2016-066

【出願番号】特願 2016-165692 (P2016-165692)

【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

G 0 1 N 33/564 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68 Z N A A

G 0 1 N 33/53 N

G 0 1 N 33/564 Z

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 3 月 24 日 (2017.3.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも 1 つのリスク遺伝的バリエーションの存在または非存在、ならびに / あるいは、少なくとも 1 つのリスク血清学的マーカーの存在または非存在を、炎症性腸疾患 ( I B D ) を有する個体における低骨密度 ( L B D ) に対する易罹患性の指標とする方法であって

、

( a ) 該個体から得た試料をアッセイして、少なくとも 1 つのリスク遺伝的バリエーションの存在または非存在を決定すること；ならびに / あるいは

( b ) 該試料をアッセイして、少なくとも 1 つのリスク血清学的マーカーの存在または非存在を決定すること；

を含み、該少なくとも 1 つのリスク遺伝的バリエーションの存在、または該少なくとも 1 つのリスク血清学的マーカーの存在、あるいは該少なくとも 1 つのリスク遺伝的バリエーションの存在と該少なくとも 1 つのリスク血清学的マーカーの存在が、該個体における L B D に対する易罹患性を示す、方法。

【請求項 2】

前記 L B D が、骨粗鬆症および / または骨減少症に関連している、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記少なくとも 1 つのリスク遺伝的バリエーションが、H L A、ラミニン、プレキシン、N L R ファミリーの遺伝子座、またはそれらの組合せに存在する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記少なくとも 1 つのリスク遺伝的バリエーションが、配列番号 1 4 および / または配列番号 1 5 である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記少なくとも1つのリスク血清学的マーカーが、抗C b i r 1、A S C Aおよび抗I 2からなる群より選択される、請求項1に記載の方法。

**【請求項6】**

前記I B Dが肛門周囲疾患と関連している、請求項1に記載の方法。

**【請求項7】**

少なくとも1つのリスク遺伝的バリエーションの存在または非存在、ならびに/あるいは、少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在または非存在を、炎症性腸疾患(I B D)を有する個体における低骨密度(L B D)の処置の必要性の指標とする方法であって、  
(a) 該個体から得た試料をアッセイして、少なくとも1つのリスク遺伝的バリエーションの存在または非存在を決定すること；ならびに/あるいは

(b) 該試料をアッセイして、少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在または非存在を決定すること；

を含み、該少なくとも1つのリスク遺伝的バリエーションの存在、または該少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在、あるいは該少なくとも1つのリスク遺伝的バリエーションの存在と該少なくとも1つのリスク血清学的マーカーの存在が、該個体におけるL B Dが処置されるべきであることを示す、方法。

**【請求項8】**

前記少なくとも1つのリスク遺伝的バリエーションが、配列番号1 4および/または配列番号1 5である、請求項7に記載の方法。

**【請求項9】**

前記少なくとも1つのリスク血清学的マーカーが、抗C b i r 1、A S C Aおよび抗I 2からなる群より選択される、請求項7に記載の方法。